

第3回雲南市下水道事業に関する審議会 議事録

1. と き：平成25年11月13日（水） 午後1時30分～午後2時50分

2. ところ：会議 雲南市水道局1階会議室

3. 出席者

(審議会委員)

金山壽忠会長、若槻秀夫副会長、坂田和子委員、勝部新治委員、難波勝委員
若槻三代子委員、坪倉要輔委員

(委員7人)

(事務局)

陶山隆樹水道局長、稲田 剛次長、高橋 歩副主幹、難波修二GL、須田 弘下水道課長
新田利治GL、藤原 敦統括主幹、上野城保明副主幹技師（事務局8人）

[次第]

1. 開会（須田）

(1) 欠席者の報告

(石橋正俊委員、永井尚二委員、塔間絹子委員、片寄健治委員、本間良一委員 5人)

(2) 雲南市下水道事業に関する審議会条例第6条第2項に基づき、委員の半数以上が出席して
おり会議が成立していることを報告。

2. あいさつ

(1) 金山壽忠 審議会会長

(2) 藤井 勤 副市長

3. 事務局職員紹介

-----以後、審議会条例第6条第3項に基づき、会長が議長となる-----

4. 審 議

会長

審議に入る。

平成24年度生活排水処理事業特別会計決算(概要)について事務局からの説明を求める。

事務局

(1) 平成24年度生活排水処理事業特別会計決算(概要)について説明。

[質疑・応答]

会長

説明が終わったが、何か質問意見があるか。

坪倉委員

先程、職員給与について32,590千円と説明があったが、この会計で職員は何人計上されて

いるのか。

また、雲南市としての実質負担は幾らになるのか。料金で全てが賄えておれば良いが。

事務局

はじめに職員数ですが、この生活排水特別会計では4名を計上しています。

次に、料金で支出が賄えているのか、市の実質負担はいくらかとのご質問ですが、料金では賄えてはおりません。市からの補助金等で賄っている状況です。上水、企業会計の場合ですと原則、料金で賄うようになっておりますが、料金低廉のため一部を市の補助金で負担しているという現状があります。

下水道事業の場合は、上水とは違いまして企業会計を採用せず減価償却等まったく考慮されておられませんし、ほとんどが市からの補助金で賄っている状況にあります。

例にとりますと、営業費用の523,548千円に対し、営業収益は496,745千円と26,803千円不足をしております。料金収入は473,666千円でありまして、営業収益不足分の26,803千円は料金収入の約5.7%に該当しています。料金収入にその5.7%上乗せ収益があれば、最低限の維持管理費用分は料金で捻出できていることとなりますが、水道（事業会計）と違いまして減価償却費用も計上しておりませんので、まだまだ不足している状況でございます。

会長

収益的収支では料金収入が473,666千円で市からの基準外繰入金が524,698千円であり、市からの負担金をはるかに多く、10年後の交付金算定で減額されるまでに経営改善の努力が必要である。まずは接続してもらうことが必要である。接続により料金収入も増えることになるので、施設が完成しても接続をしてもらえなければ意味がないと、説明を聞きましてそういうふう感じた。

事務局

下水道事業におきましては、整備してから加入接続されまして料金収入が平準化されるまでには、水道と違い期間がかかるというのが実態です。水道のように既に全市におきまして90%以上の加入率がありますと料金収入も相当あるわけですが、下水道の現在の加入者の皆さんで全てを負担するというのは発想自体無理がありますので、その辺も含めまして今後、中長期的な方針計画を策定し健全経営に向けてどう対応していくかを定める時期にきていると感じております。

会長ご指摘のように17億余の繰入金のうち5億5千万近くが基準外繰入でありますして、対する使用料が5億を下回っているという状況でありますので今後検討して参りたいと考えているところです。

会長

説明にあった、工事が完成してから接続には時間がかかるというその発想を変えてもらわなければ困る。工事が終わったら直ぐに入ってもらおうよう、もっとPRしなければいけない。待ちの姿勢は駄目であるし、こちらから積極的な対応をとらなければ、市の負担を減らすことはできない、ここでもう少し努力をしていかねばいけないと思うが、皆様はいかが。

事務局

接続率の向上につきましては、市の総合計画等で下水道事業の重要施策として取り上げております。先程の副市長挨拶でもありましたように下水道の集合処理施設整備につきましては、大東町の一部を残しまして面的整備を終えようとしており、これからは維持管理と接続

率向上に向けての対応が重要となります。

接続率の向上については、雲南市に限らず他市町村におきましても重要課題として取り組みを行っております。接続が進まない要因といたしまして1点目には、高齢世帯や独居世帯等高齢化があげられます。2点目といたしまして、接続には当然工事費がかかってまいりますので、その費用負担が重くなっていると考えております。

下水道整備中にありましては、その工事説明会や広報等で接続のお願いをしておりました。今後は、会長ご指摘のとおり接続率向上に向けての取り組みを強化致したいと考えておりますが、他市におきましても中々良い対策がないというのが実態でありまして、戸別訪問によりお願いをされた事業者もありますし、アンケートをとり組みましても結果、接続費用が捻出できない等、実績としては芳しくなかったということでございまして、やはり、高齢化と接続費用が妨げとなっている状況がございます。この接続率の向上につきましては、雲南市に限らず島根県、全国的な下水道事業者の大きな悩みでございます。

会長

市への要望というか、できれば早く事業実施してほしいという地元からの声により整備をしているわけで、接続については地域で責任を持ってもらわなければならないが、確かに独居とか高齢化というのはある。そうなる前に加入してもらうよう取り組むことが重要である。

難波委員

確かに、過疎地域で加入率が低いのは、ある意味仕方がないことと思う。空き家が転々と本当に多くなり、この状態において料金で全てを賄うのは無理があると思っているが、当然経営努力はしてもらわなければいけない。人口が増える市町村は良いが、減る市町村は難しい問題と考える。

会長

副市長、この問題については如何か。

副市長

接続率の関係ですが、高齢化は要因となっています。実際のところ高齢者世帯で未接続のところがあり、その内片方がお亡くなりになられまして、いよいよ接続工事費が捻出できないという事がありまして、やはり熱い内に、整備して直ぐに（接続する）といえますか、熱意があるうちにやらないと確かに厳しいものがあります。

面的整備もその殆どが終わり、大東町で一部市立病院周辺が残っておりますが、議会からは、大東高校周辺を取り込んでという一般質問があっております。

当時の大東町の方針で、街部の一部のみが集合処理で、他は個別浄化槽で対応するということになっております。最終的には、3,000基ぐらいになるのではと思っております。今後の維持管理が大変になると思われまます。片方では採算ということから経費節減をきちんとやらなければならないですし、収入を得ることに力を注いでいかないと大変なことになるなというふうに思っているところでございます。

会長

農業集落排水と合併浄化槽の維持管理費はどちらが安いのか。

事務局

100世帯とかで比較をしますと、合併浄化槽の維持管理費が高くなります。

会長

そうすると、大東町は3,000基を越えるという話だが、効率が悪いということになる。

事務局

集合処理につきましては、例えば50%程度の接続率でありますとその整備された管路は無駄になるという考え方もあります。一方、合併浄化槽は直ぐに水洗化されますので、インシャルコストがすぐに料金で帰ってくるという考え方や、申し込まれてから約1月で完成するという対応の早さ等のメリットから大東町は対応されたのではないのでしょうか。

会長

その当時の合併浄化槽の所管は厚生省であったと思うが、要望しても予算枠が限られており、全て割当てがくるものではなく、そんなに多くは無かったと思う。

今思うのは、農業集落排水とか公共下水道で整備されれば良かった、維持管理が楽になったのではないかと考えており、具体的には年2回の汲み取りとか法定検査とかあってこれは、一生続くものなので、大規模修繕もあるし、今後検討をお願いしたい。

会長

ほかにないか。次に進めてよろしいか。

それでは、平成25年度事業の進捗についてを議題とする。

事務局からの説明を求める。

事務局

(2)平成25年度事業の進捗について説明

会長

平成25年度事業の進捗について説明があったが、ご質問はあるか。

坪倉委員

尾道松江線のたたらば壺番地のトイレの問題について伺う。この度改良されたが、あれで終わりか。

事務局

たたらば壺番地は、下水道課、水道局の所管ではありません。

坪倉委員

水道はどうなっているのか。

事務局

水道につきましては、水道局で管理をしています。たたらば壺番地は、浄化槽でございまして、予想をはるかに上回る来場者があり、嬉しい悲鳴と申しませうか、そのへんの対応は建設部が行っています。

副市長

200人槽の合併浄化槽であります、それを越えて訪れていただきまして、5月連休時は仮設トイレを設置しましたが、嫌がる方も多く、バスが着きますと長蛇の列となり、色々ご迷惑をかけております。現状では解決に至りませんので、国土交通省の敷地、チェーンベースにトイレを作ってもらえるよう、鳥取県でもその例がありますので、お願いをしているところであります。難しい場合は、市におきまして建設する考えです。

高野町とたたらば壺番地のトイレまで三次から60kmであり、尾道まで開通いたしますと、四国からも来ていただけますし、更には関西方面からのお客さまを想定しますと、今以上に増えて参りますので、また、お土産の状況といえ、ホクホクで評判も良いわけござい

まして対応を考えているところでございます。

会長

せっかく来てもらうことだから、評判を落とさないように早急なる対応をお願いしたい。

会長

ほかに質問はないか。ないようなのでその他にはいる。

事務局

下水道使用料（近隣市町村）について説明。

会長

質問はあるか。

水道料金は高いが、先程の説明からすると下水道使用料は安い。

事務局

水道料金は県下 19 市町村中 11 番目と中位でございます。

会長

下水道は、2 番目なので安い。

副市長

石見 4 市については、事業進捗が少し遅れておりまして、出雲部の進捗は比較的高いよう
でございます。松江市は普及率がほぼ 100%であります。雲南市は、料金と普及率について
はまあまあかなというところでしょうか。

会長

質問はないか。

----- 「なし」との声あり -----

終わってよろしいか。

以上で審議を終了する。

会議終了 14 時 50 分

以上
